

令和元年 10 月 3 日

令和元年度 消防庁における熱中症対策

1. 熱中症による救急搬送人員の調査と公表

○ 2019 年度調査概要

方法：サーベイランスシステムを使って、全国の消防本部のデータを集計

期間：4月29日～10月6日(5月1日を含む週の月曜日から9月30日を含む週の日曜日まで)

公表：週毎に速報値、月毎に確定値を公表

○ 2019 年度調査の結果

〈週報報告〉(最新値)

- ・ 9月16日から9月22日までの全国における熱中症による救急搬送人員(速報値)の合計は523人

※調査期間中では、7月29日から8月4日までの熱中症による救急搬送人員(確定値+速報値)18,334人、死亡者数(速報値)57人がともに最多

〈月報報告〉(最新値)

- ・ 2019年5月から8月の熱中症による救急搬送人員(確定値)61,785人、死亡者数(確定値)116人

○ 調査データの公表

- ・ 10月末頃に消防庁HPの「熱中症情報」サイトに9月の月報報告及び5月から9月の熱中症による救急搬送状況を掲載及び報道発表予定

2. 予防に係る普及啓発等

○ 消防の取組

- ・ 消防庁ホームページの「熱中症情報」サイトに、熱中症による救急搬送人員調査、熱中症予防啓発ポスター、熱中症予防啓発車両用シート、予防啓発ビデオ、予防啓発イラスト、予防広報メッセージ、熱中症対策リーフレット、訪日外国人のための救急車利用ガイド、外国人のための熱中症予防普及啓発用リーフレット、熱中症予防啓発取組事例集等の情報を掲載
- ・ 今年度は、新たに映画「トイ・ストーリー4」とタイアップした熱中症予防啓発ポスター及びリーフレットを作成し、都道府県を通じて各消防本部に配布を行った。(7月12日)
- ・ 消防庁ツイッター(フォロワー数：約95万)を用いて、住民に熱中症予防を呼びか

けた。(5月から9月随時)

- ・「山形県沖を震源とする地震」、「令和元年6月下旬からの大雨」、「令和元年8月の前線に伴う大雨」、「台風15号に伴う大規模停電」による被災住民やボランティア等の方に熱中症に対する注意喚起と予防方法についての積極的な情報提供を行うよう都道府県を通じて各市町村へ依頼した。

(山形県沖を震源とする地震：6月20日、令和元年6月下旬からの大雨：7月4日
令和元年8月の前線に伴う大雨：8月29日、台風15号に伴う大規模停電：9月9日)

- ・熱中症予防強化月間中、熱中症に係るリスクが高くなると見込まれ、更なる熱中症対策が必要とされることから、消防本部に対し熱中症予防啓発に係るコンテンツ等を活用して、消防機関主催の行事等あらゆる機会を通じて積極的に予防啓発を行うよう依頼した。(8月6日)

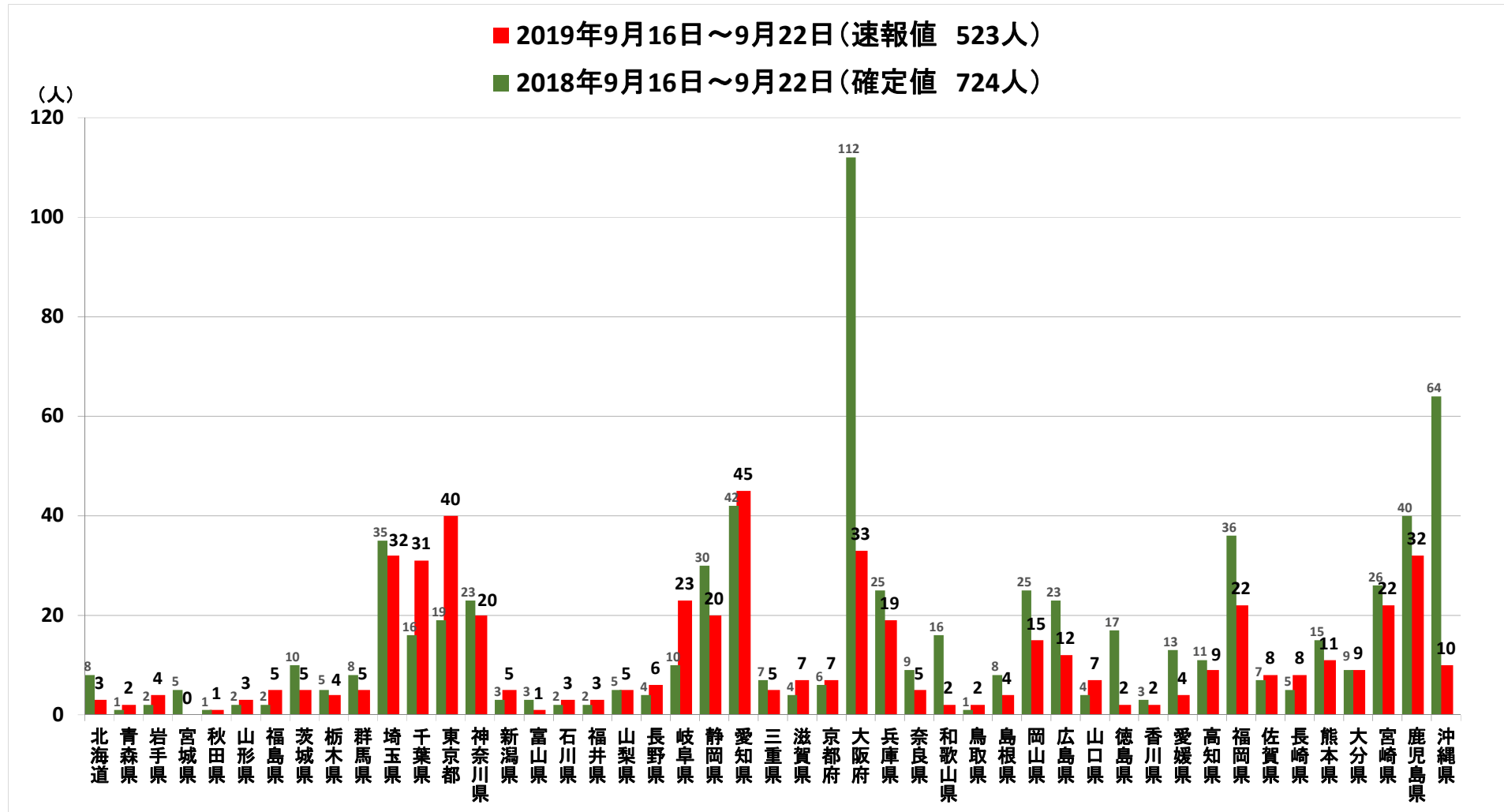
第1回熱中症關係省庁連絡會議幹事会

消防庁提出資料

資料1 速報値（抜粋）熱中症週報（第21回）

資料2 確定値（抜粋）熱中症月報（8月）

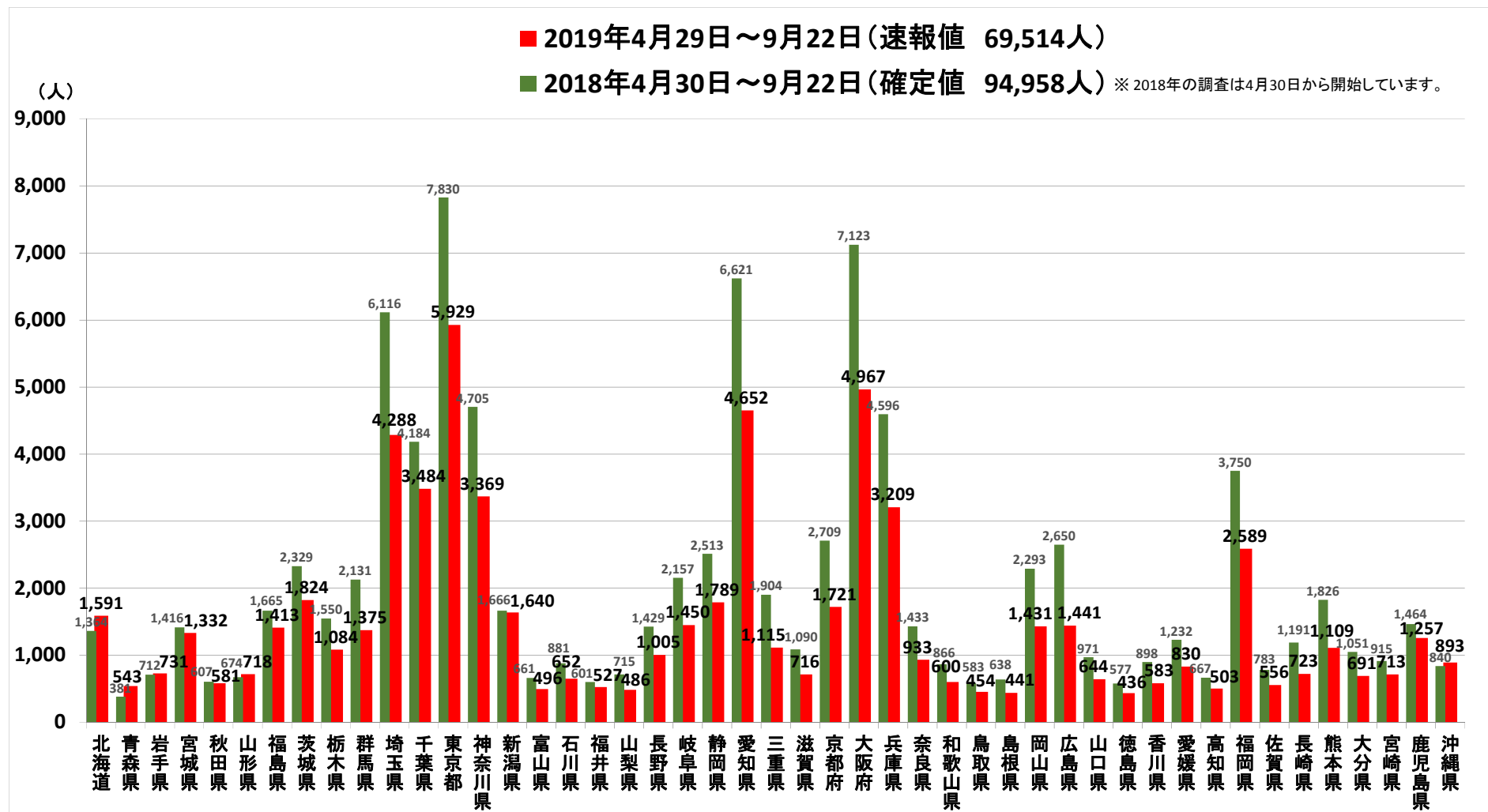
2019年 都道府県別熱中症による救急搬送人員 前年同時期との比較



* 速報値(赤)の救急搬送人員は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

2019年 都道府県別熱中症による救急搬送人員 合計搬送人員 前年との比較

(4月29日から9月22日)

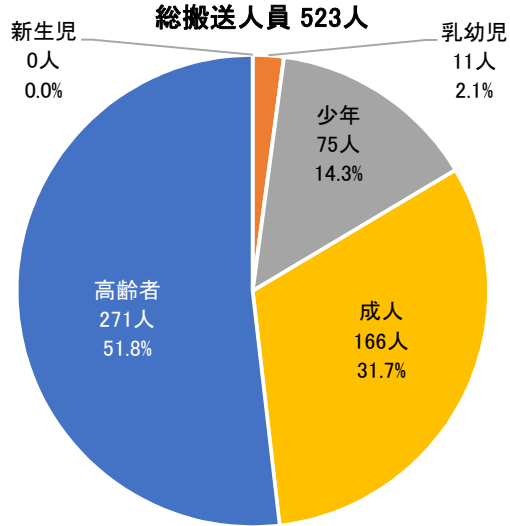


* 速報値(赤)の救急搬送人員は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

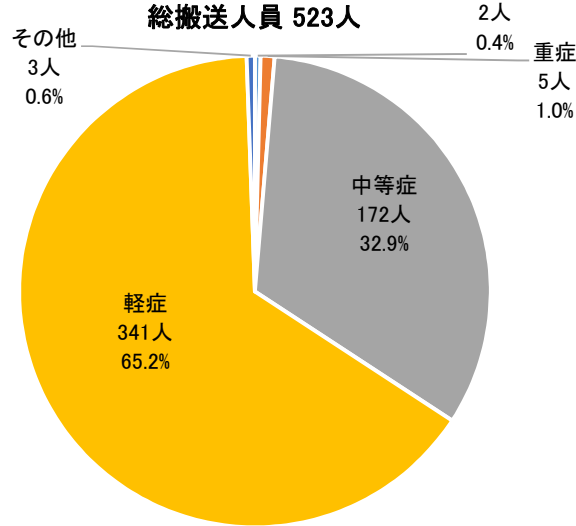
2019年9月16日～9月22日 全国の熱中症による救急搬送状況(日別) 速報値

日付	曜日	年齢区分別(人)						初診時における傷病程度別(人)						発生場所別(人)								
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計	住居	仕事場①	仕事場②	教育機関	公衆(屋内)	公衆(屋外)	道路	その他	合計
9月16日	月	0	3	27	44	80	154	1	2	49	101	1	154	65	10	4	8	13	28	14	12	154
9月17日	火	0	3	17	56	86	162	1	0	59	102	0	162	63	22	5	16	10	18	20	8	162
9月18日	水	0	2	8	22	27	59	0	0	19	39	1	59	23	10	4	8	2	0	9	3	59
9月19日	木	0	1	7	17	28	53	0	0	20	32	1	53	22	6	2	5	2	4	10	2	53
9月20日	金	0	2	9	8	17	36	0	0	12	24	0	36	11	1	2	8	4	5	4	1	36
9月21日	土	0	0	4	8	11	23	0	1	4	18	0	23	7	1	0	1	4	3	2	5	23
9月22日	日	0	0	3	11	22	36	0	2	9	25	0	36	10	1	5	2	4	5	6	3	36
合計		0	11	75	166	271	523	2	5	172	341	3	523	201	51	22	48	39	63	65	34	523
搬送人員に対する割合		0.0%	2.1%	14.3%	31.7%	51.8%	100.0%	0.4%	1.0%	32.9%	65.2%	0.6%	100.0%	38.4%	9.8%	4.2%	9.2%	7.5%	12.0%	12.4%	6.5%	100.0%

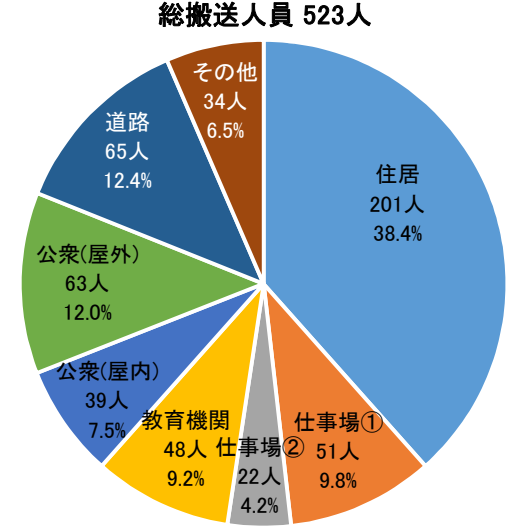
年齢区分別(構成比)



初診時における傷病程度別(構成比)



発生場所別(構成比)



新生児 生後28日未満の者
 乳幼児 生後28日以上満7歳未満の者
 少年 満7歳以上満18歳未満の者
 成人 満18歳以上満65歳未満の者
 高齢者 満65歳以上の者

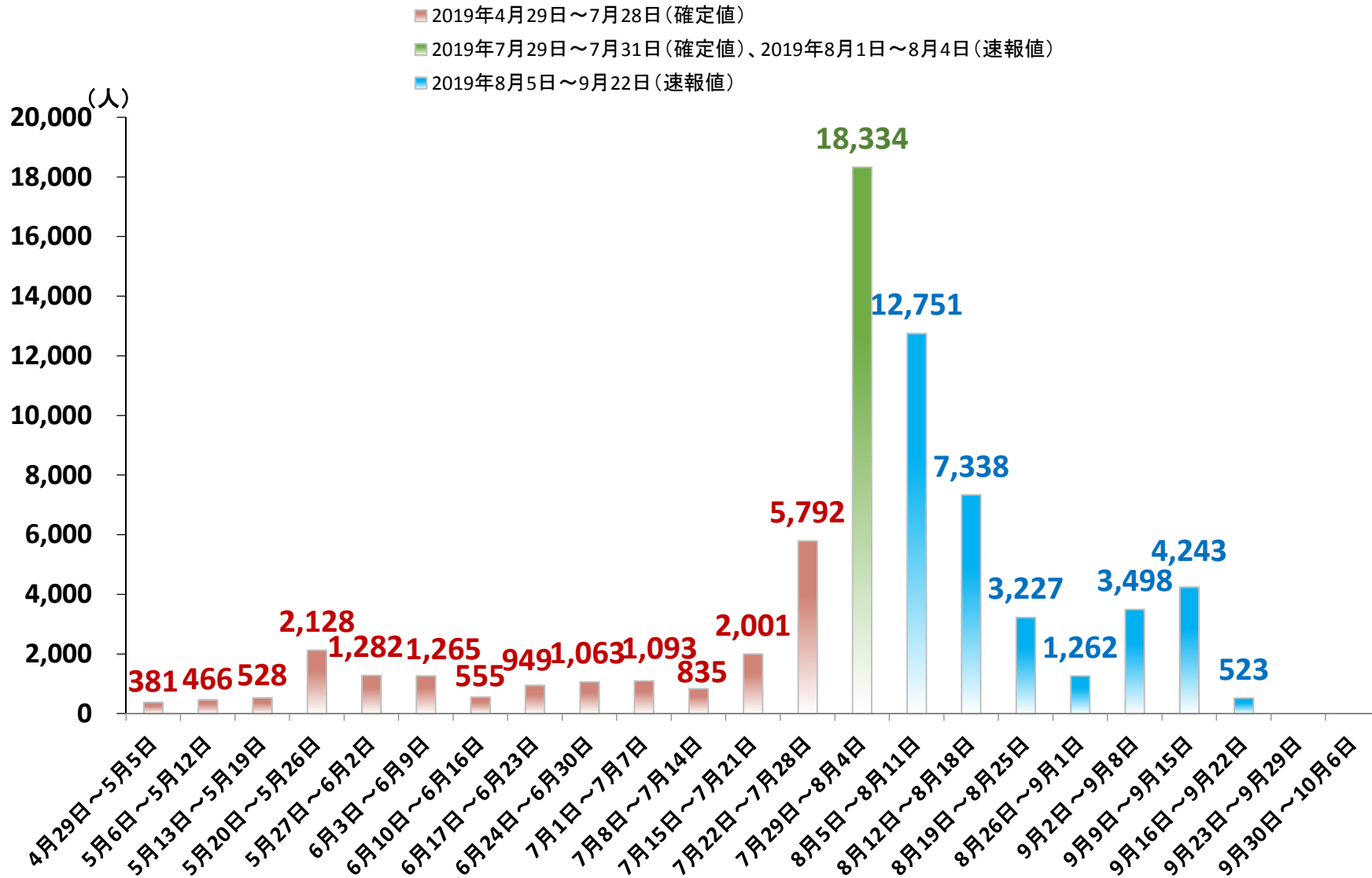
死亡 初診時において死亡が確認されたもの
 重症 (長期入院) 傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
 中等症 (入院診療) 傷病程度が重症または軽症以外のもの
 軽症 (外来診療) 傷病程度が入院加療を必要としないもの
 その他 医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、その他の場所へ搬送したものの

※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれる。

住居 (敷地内全ての場所を含む)
 仕事場① (道路工事現場、工場、作業所等)
 仕事場② (田畑、森林、海、川等 ※農・畜・水産作業を行っている場合のみ)
 教育機関 (幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等)
 公衆(屋内) 不特定者が出入りする場所の屋内部分 (劇場、コンサート会場、飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅(地下ホーム)等)
 公衆(屋外) 不特定者が出入りする場所の屋外部分 (競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅(屋外ホーム)等)
 道路 (一般道路、歩道、有料道路、高速道路等)
 その他 (上記に該当しない項目)

※端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

2019年の熱中症による救急搬送状況(週別推移)



* 速報値(緑、青)の救急搬送人員は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

2019年8月の熱中症による救急搬送状況

熱中症による救急搬送人員について、2019年8月の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

概 要

- 2019年8月の全国における熱中症による救急搬送人員は36,755人でした。これは、昨年8月の救急搬送人員30,410人と比べると6,345人多くなっています。
- 全国の熱中症による救急搬送状況の年齢区分別、初診時における傷病程度別等の内訳は次のとおりです。
 - 救急搬送人員の年齢区分別では、高齢者が最も多く、次いで成人、少年、乳幼児の順となっています。
 - 搬送された医療機関での初診時における傷病程度別にみると、軽症が最も多く、次いで中等症、重症の順となっています。
 - 発生場所別の救急搬送人員をみると、住居が最も多く、次いで道路、公衆(屋外)、仕事場①の順となっています。
 - 都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員は、福島県が最も多く、次いで群馬県、山形県、新潟県、奈良県の順となっています。

- 熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。予防対策として、日陰や涼しいところで休憩をとること、こまめに水分補給を行うこと、屋外では帽子をかぶることなどに心がけてください。
- 消防庁では、熱中症予防啓発のコンテンツとして、「予防啓発ビデオ」「予防啓発イラスト」「予防広報メッセージ」「予防啓発取組事例集」を消防庁ホームページ熱中症情報サイトに掲載しています。
 全国の消防機関をはじめ、熱中症予防を啓発する関係機関にも御活用いただけるよう、以下の消防庁ホームページに掲載していますので、是非御活用ください。

○ 報道資料の入手方法

報道資料については、総務省ホームページ (<http://www.soumu.go.jp>) の「報道資料」欄及び消防庁ホームページ (<https://www.fdma.go.jp/>) に、本日(26日(木)14時)を目途に掲載します。



(連絡先)

消防庁救急企画室

担当：三島、増田、新井

電話：03-5253-7529

FAX：03-5253-7532

E-Mail: kyukyukikaku-kyukyurenkei@soumu.go.jp

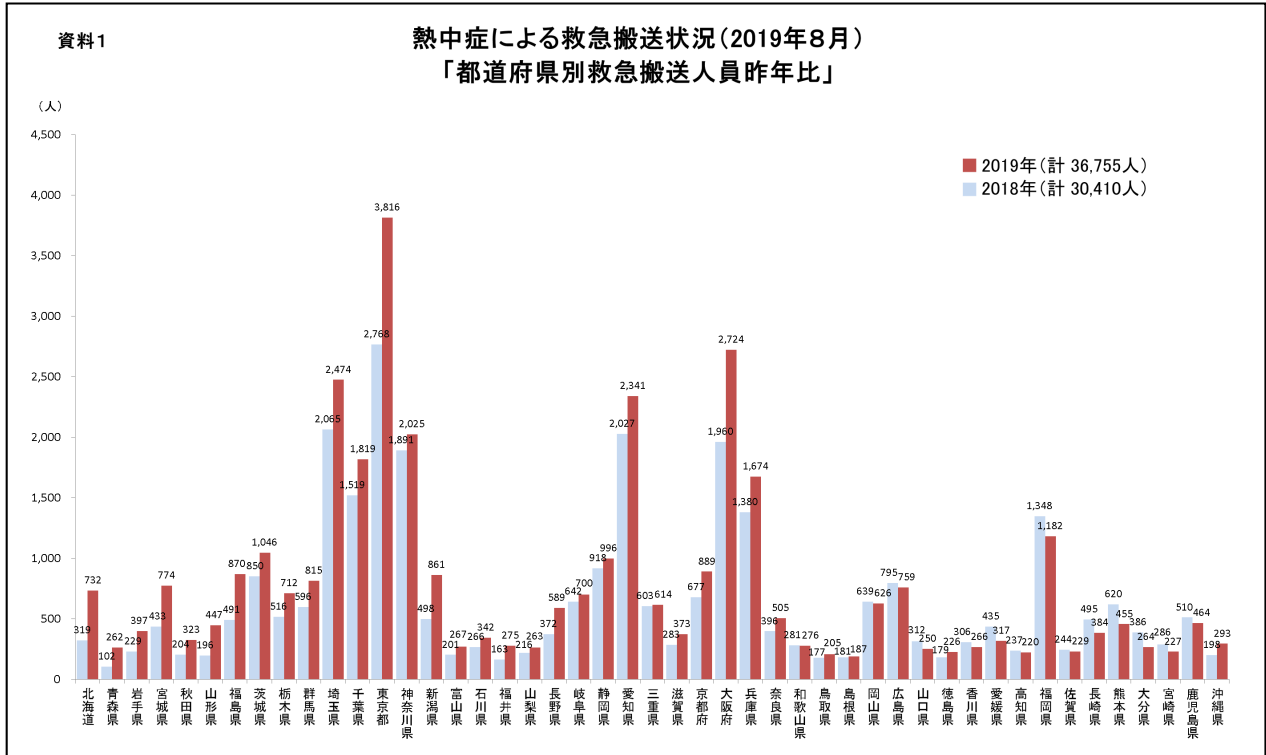
2019年8月の熱中症による救急搬送状況の概要

2019年8月の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 総数

2019年8月の全国における熱中症による救急搬送人員は36,755人でした。これは、昨年8月の救急搬送人員30,410人と比べると6,345人多くなっています。

(資料1、8)

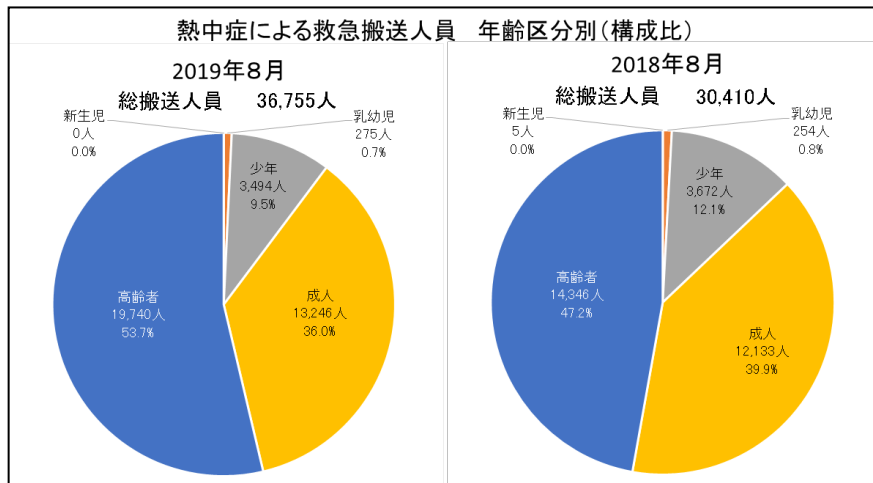


2 内訳

(1) 年齢区別の救急搬送人員

高齢者(満65歳以上)が19,740人(53.7%)、次いで成人(満18歳以上満65歳未満)13,246人(36.0%)、少年(満7歳以上満18歳未満)3,494人(9.5%)、乳幼児(生後28日以上満7歳未満)275人(0.7%)の順となっています。

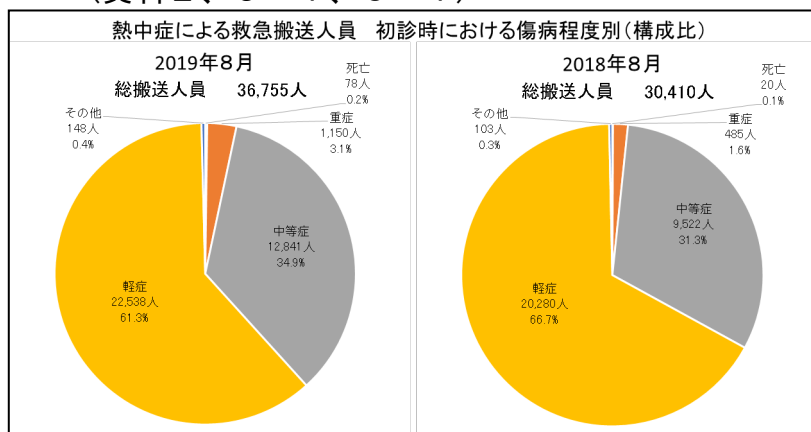
(資料2、5-1、6-1)



新生児 生後28日未満の者
乳幼児 生後28日以上満7歳未満の者
少年 満7歳以上満18歳未満の者
成人 満18歳以上満65歳未満の者
高齢者 満65歳以上の者

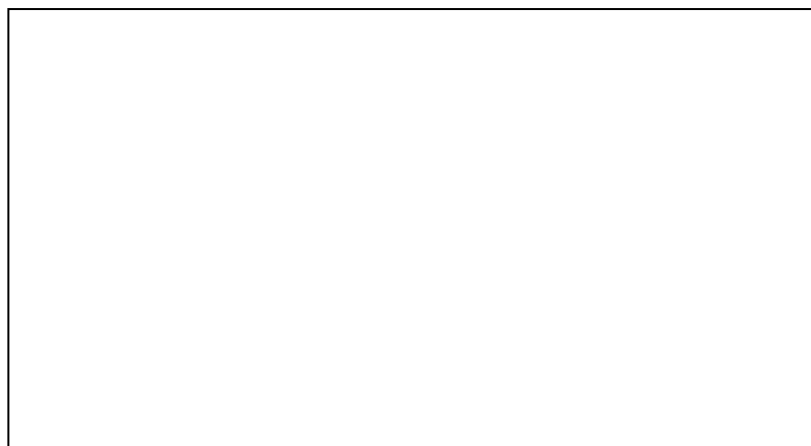
(2) 医療機関での初診時における傷病程度別の救急搬送人員

軽症（外来診療）が最も多く 22,538 人（61.3%）、次いで中等症（入院診療）12,841 人（34.9%）、重症（長期入院）1,150 人（3.1%）の順となっています。（資料 2、5-1、6-1）



(3) 発生場所別の救急搬送人員

住居が最も多く 15,963 人（43.4%）、次いで道路 5,649 人（15.4%）、公衆（屋外）4,276 人（11.6%）、仕事場① 3,780 人（10.3%）の順となっています。（資料 2、5-2、6-2）



(4) 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員

福島県が最も多く 45.45 人であり、次いで、群馬県 41.31 人、山形県 39.77 人、新潟県 37.37 人、奈良県 37.01 人の順となっています。（資料 3、7）

